津波防災ニュース

大きな揺れを感じたらいち早く避難を！

令和3（2021）年11月5日
北海道 建設部　建設政策局 維持管理防災課

北海道
その先の、道へ。北海道

11月5日は津波防災の日

平成23（2011）年3月に発生した東日本大震災による甚大な津波被害を踏まえ、国民の間に広く津波対策についての理解と関心を深めるため、「毎年11月15日」を「津波防災の日」と定められました。

この日は、1854年11月5日に発生した「安政南海地震」で、和歌山県を津波が襲った際、村人が高台に積み重ねていた稲むら（取り入れの終わった稲わら）に火をつけ、村民を安全な場所に誘導したという実話にちなみます。

また、平成27（2015）年12月の国連総会本会議で日本をはじめ142カ国が「世界津波の日」を共同提案し採択されました。

令和元（2019）年には、「『世界津波の日』2019高校生サミットin北海道」が開催され、日本を含む44カ国の高校生が参加しました。

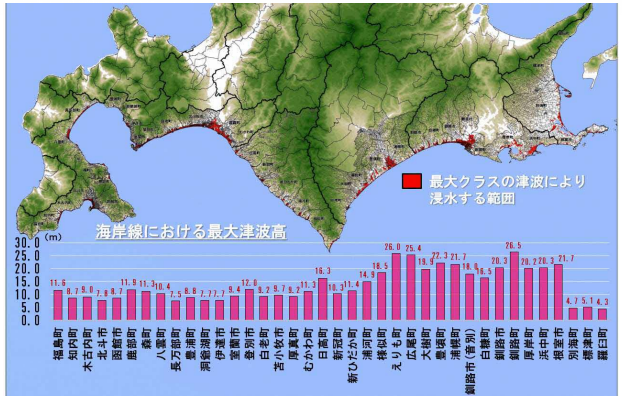
太平洋沿岸の津波浸水想定　設定・公表

令和3年7月19日、太平沿岸の津波浸水想定が北海道防災会議地震専門員会で承認され、同日に設定・公表しました。

津波浸水想定とは、最大クラスの津波があった場合に想定される浸水の区域・水深のことで、都道府県知事が設定するものです。

現在の科学的知見に基づく想定ですが、津波は自然現象のため、想定を超えることもある得ることに注意する必要があります。

北海道　津波浸水想定



津波防災まちづくり講演会inひだか

令和3年10月19日、災害社会工学が専門の**片田敏孝氏（東京大学大学院情報学環 特任教授）から「巨大津波想定にどう向かい会うか」についてご講演いただきました**。

今年度はオンライン開催でしたが、地元静内高校など日高管内の方々をはじめ、約300名にご参加いただきました。

参加者からは、「想定津波高日本一を逆手にした黒潮町の取組事例など貴重な話を聞くことができた」「今まで知らなかった津波のことを知ることができ、とても勉強になった」「災害に備えて行動することの大切さを知ることができた」など大変好評をいただきました。

講演後のアンケートでは、98%の方々が「津波に対する避難意識が高まった」と回答されました。

過去の教訓
1993年（平成5年）北海道南西沖地震

地震の震源は、北海道南西沖で震源の深さは34ｋｍ、マグニチュード7.8で、奥尻島はもとより、北海道や東北地方の各地で震度５の強震から震度４の中震を記録しました。奥尻島は震度計が設置されていないため震度６の烈震と推定されています。

震源に近い奥尻島では、**地震発生から２～３分後に津波の第１波が来襲**したものとみられており、津波の到達した高さは最高で約30mに達し、集落が一瞬のうちに壊滅的な状態となり、**人的被害のほとんどが津波によるものでした**（死者・行方不明者約230名）。

当時の被害を教訓に、防潮堤、避難路、指定避難場所、津波水門等様々な防災対策が実施されています。

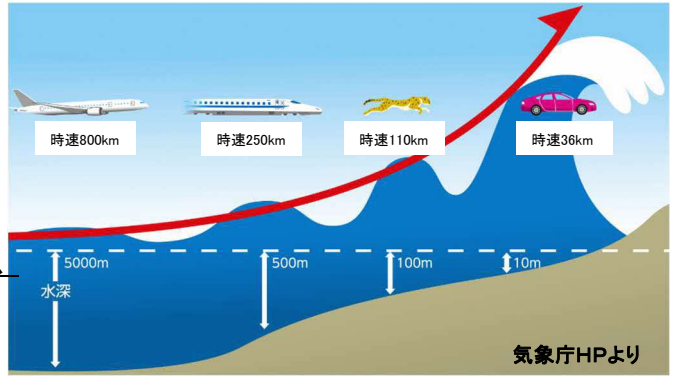
津波の基礎知識

海底下で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。

地震を発生させた地下の断層の傾きや方向、また、津波が発生した場所と海岸の位置関係によっては、**潮が引くことなく最初に大きな波が海岸に押し寄せる場合もあります**。

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合はジェット機に匹敵する早さで伝わります。逆に水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。

海岸近くでは、オリンピックの短距離走選手並の速さで押し寄せてくるので、津波が見えてから避難を始めても逃げ切れません。**海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、いち早く避難しましょう。**



津波防災に関するお問い合わせ

津波災害警戒区域や津波防災に関して疑問等ありましたら、当課までお気軽にお問い合わせください。

北海道建設部維持管理防災課　施設防災係
TEL：011-204-5917（直通）
E-Mail：kensetsu.kenbou@pref.hokkaido.lg.jp